

# 地域再生とまちづくり

各都市が目指すものは

<第27回>

## リーマンショックが契機

羽島郡岐南町は岐阜県の南部に位置し、南は愛知県一宮市、北は岐阜市と接する面積約7・9平方キロ、人口約2万5千人の町で岐阜市、名古屋のベッドタウンとしての性格も併せもつ比較的小規模な町である。

リーマンショック後は、旧来より物流の拠点として発展してきたが、近年は相次ぐ工場の海外移転や、為替変動などにより徐々に物流拠点としての位置づけが低下するようになり、08(平成20)年のリーマンショックでは同町を含む県経済は大きな打撃を被った。

## 岐阜県岐南町・子育て世代の環境整備を推進

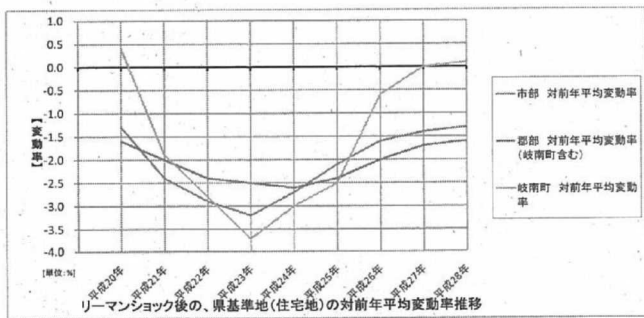
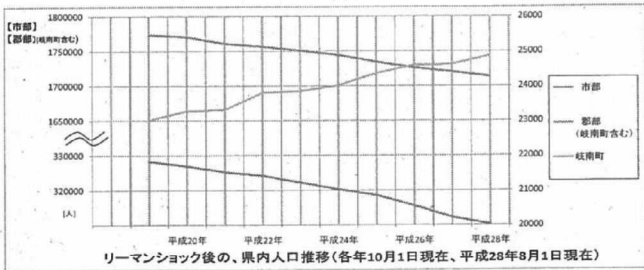
リーマンショック後の経済的な閉塞感の中で、岐南町は、地域の再生とまちづくりについて模索を行い、「岐南町の未来に希望を持てるようなまちづくり」をコンセプトに①若い世代の経済的な不安の解消、②安心して子育てできる環境の整備に力を入れ、若い世代の人口増、ひいては町内経済の活性化を図るという施策を取った。

具体的には児童保育事業、一人親家庭の支援制度、減免軽減制度等について一層の

拡充を図り、子育て世代が住みやすい環境整備を進めた。特筆すべきは、13年4月から導入した小中学校給食費無料事業化で、全日本教職員組合(全教)が15年6月に公表した調査によると、小中学校とも全額助成は全国で44自治体のみであり、東海3県では初の取り組みとなっている。

これらの施策の影響により、子育て世代の親やその子どもが岐南町に移り住み、ま

岐阜県岐南町の位置図



## 小中学は給食費無料 移住者などで人口増加続く

ますます子どもが多く住む活気あふれる町になっている。人口減少に苦慮する県内の自治体の中で、人口増を続ける岐南町がいかんにか特筆すべき存在であることが理解されよう。

また、人口増加に伴って不動産市況も活発になっており、新築分譲住宅の着工戸数が増加するなど土地需要が好転している。

16年9月発表の岐阜県地価調査における調査住宅地246地点のうち、昨年に比べて地価が上昇した地点は17地点(約6・9%)である。その中に0・2%の上昇を示した岐南町の基準地「岐南(県)」も含まれている。他の16地点

岐南町の成果は、比較的小規模な自治体でも、差別化を図ることで地域再生とまちづくりが可能であることを示しており、一つのモデルケースとなっている。しかし、好循環を維持するためにはさらに新たな施策を投入する継続性が必要であり、今後の費用負担増にも備える必要がある。郡部の自治体の一つの成功が更に発展するよう今後の岐南町の躍進を期待したい。

(日本不動産研究所岐阜支所、不動産鑑定士・西村 隆)

### 郡部自治体のモデル

は全て市部に所在し、郡部所在は同当地点のみである。また、08年からの岐阜県地価調査の推移を見ると、13年の小中学校給食費無料事業化以降は市部の変動率を上回る回復を示しており、また、岐阜県内の他市町村が対前年平均変動率がマイナス幅で推移する中で、16年の岐南町の住宅地は0・2%の増加を示している。